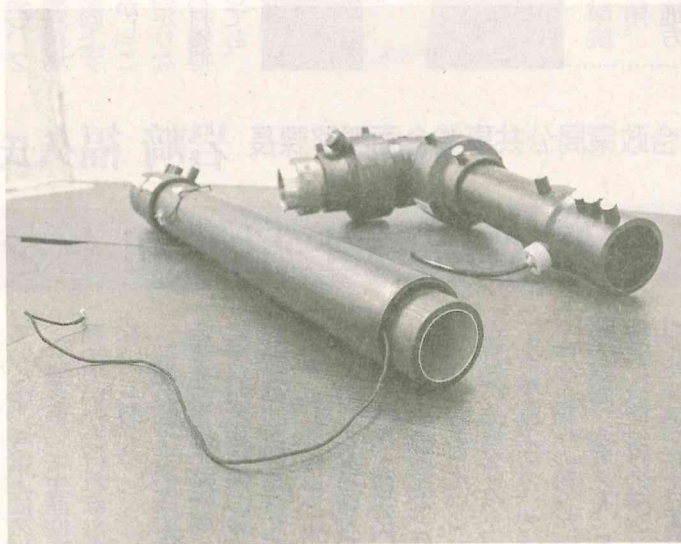


サンフロイント(本社・東京)は、センサーによる漏えい検知機能の付いた樹脂二重殻配管を提案する。二重になった配管の間にセンサーを組み込み、外部からの水の浸入や内部からの燃料油の流出をセンサー1本でピンポイントで検知。全国危険物安全協会(本部・東京)の性能評価書を取得していて、消防法に沿った年1回の定期点検を受けなくて済む。自家発電施設を持つ工場や病院、自治体庁舎などを中心に古くなった鋼管の代替で使ってもらいたい考えだ。

サンフロイントの樹脂二重殻配管

センサーで漏えい検知



工場など老朽管の代替に

軽油や重油などの地下タンクを備える運輸会社や工場、病院、自治体庁舎、介護施設などに向けた製品。本管と外殻管の隙間にセンサーを組み込んで外部から

センサー1本で外部からの水の浸入や内部からの燃料油の流出をピンポイントで検知する

の水、内部からの燃料油や溶剤の漏えいを検知する。樹脂製なので、鋼管に比べ腐食やさびによる漏えいのリスクが少ない。

管にはセンサーケーブルと圧力検査チューブが付属し、漏えい箇所をユニットごとピンポイントで把握できる。異常箇所を特定するために敷地全体を大きく掘り起こすなどの労力がなく、迅速に原因究明できる。

全国危険物安全協会の性能評価書を取得するセンサー付き樹脂二重殻配管は同製品だけでなく、施設管理者にとって年1回の消防点検を実施せずに済むのは、人手不足が叫ばれる昨今では重

要な選定要素。全国ではガソリンスタンドのほか、施設面積の大きい工場などで使われている。道内は自家給油所を持つバス会社などを中心に関心が高いという。

経済産業省は、高度経済成長期などに建てられた給油所施設の安全対策として腐食の恐れの高い地下タンクの内面ライニング工事などで補助金を用意する。制度は10年以上続き、大半のスタンドが同補助金などを利用して対策を講じた。一方でタンクと計量機を結ぶ鋼管は手付かずのところが多く、漏えい対策に有効な樹脂管の潜在需要は高い。

上野雄一取締役は「コンプライアンスやSDGsを背景に企業の環境対策は避けられない課題であるため、埋設管の交換を検討する場合はセンサー付き樹脂二重殻配管を選んでほしい」と話している。